

特集「栃木県青少年育成県民会議表彰」優良青少年団体の紹介 ～帝京大学 防災ボランティアERSU～

私たち「防災ボランティアERSU」は東日本大震災のあとの2013年4月1日に発足しました。現在は男性32名、女性10名の計42名で活動している帝京大学のボランティアサークルです。元々は東日本大震災の東北ボランティアへ行くために設立したサークルでした。それが段々と被災したらどうするかという防災のための知識や経験を身につけるといった目的になっていきました。近年は身近なものでランプを作ったり、ご飯を炊いたり、救助のためにAEDや災害に関する知識をつけたり、広めたりする活動を行なっています。現在でも3月1日には宮城県三陸地方や福島県へ赴き、震災を風化させないためにボランティア活動や震災遺構を巡るなどして部員に震災の被害を伝えています。栃木県内でも防災訓練に参加したりボランティア活動なども行なったりしています。

令和元年度の活動をいくつかご紹介します。8月に宇都宮市総合防災訓練に参加しました。ここでは初期消火訓練、炊き出し、バケツリレーを行ないました。この訓練で初期消火の対応の重要性、また災害時における行政や企業の対応を間近で見ることができました。10月には台風19号の県内被災地のボランティア活動に参加しました。栃木県内でも、台風19号による被害は大きく、様々なところで堤防決壊やその他の氾濫が発生しており、この時ボランティアに行った宇都宮市大谷でも大きな被害がありました。瓦礫がよせてあったり、河川がところどころ決壊していたりなど、大きな被害が発生していました。このボランティアでは瓦礫の撤去や、被災者宅の片付けの手伝いなどを中心に行ないました。11月には宇都宮市中央防災訓練に参加しました。この活動では空き缶ご飯の実演をしました。空き缶ご飯とは被災時などに電気・ガスが止まってしまったときでもアルミ缶と牛乳パックでご飯を炊くことができる方法で、私たちのサークルで代々受け継がれているものです。防災訓練時には子供たちが興味を持って集まってきてくれたおかげで、子供たちはもちろんのこと、そのご家族の方にも空き缶ご飯のことを知っていただくことができました。このような被災時に役立つ知識が多くの人に広まってほしいと思いこのような活動をしています。他にも昨年度からは栃木県消防防災課と連携し、他大学の防災サークルと連絡協議会を結成し活動をしています。今年度はコロナウイルスの影響でほとんど活動ができていませんでしたが、連絡協議会の活動の一環で他大学と協力のもと、空き缶ご飯の炊き方を伝える動画を作りました。現在、YouTubeにて配信しておりますので、QRコードから是非ご覧ください。

今後も他大学や栃木県との連携を強めながら、東北地方でのボランティア活動や震災遺構を巡ることを通して東日本大震災を風化させないようにすると共に、防災の知識・経験や被災時の行動などを多くの人に知ってもらうために活動を続けていきたいと考えております。

